

平成26年度 施策評価シート

作成日 平成 26 年 11 月 17 日

1 施策の概要

施策名 (節の名称)	No. 26 生きがいつくりと社会参加の促進				
部章節No.	第3部 第3章 第1節	評価担当部	民生部	関連部局	-
総合計画書掲載頁	114 頁	記載責任者	平本明敏		
総合計画 体 系	まちづくりの目標【部】	健康でゆとりとふれあいのまちづくり			
	施策の分類【章】	ゆとりと生きがいのある高齢者施策の推進			
施策の目的 (基本方針)	高齢者の持つ知識や経験をいかし、健康で生きがいを持って社会活動に参加することができるような環境づくりを進め、就労、ボランティア、学習、余暇活動などさまざまな活動を促進します。				

2 施策を取り巻く環境

施策の現状	高齢化社会を迎え、高齢者が健康で生きがいを持った生活を送ることが出来るよう、また主体的に健康づくりや生きがいつくりに取り組むことが出来る活動の場や学習機会の充実を図っている。高齢者これまで培った知識と経験を生かしてボランティア活動など多様な社会活動を通じて、地域社会の担い手としての役割果たしていくことが期待されている。併せて、高齢者の就労の場であるシルバー人材センターについて、受注事業の拡大や新規事業の開拓などの促進に引き続き支援し、雇用促進に努める。
法令・制度 の変更	第6期愛川町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定中。（H27. 4. 1から運用開始）
施策の課題	多様化している要望に対応した実施形態や事業内容の充実を図る。 各老人センターの耐震診断の分析、必要な補強などをはじめ、適切な施設の維持管理、修繕等を計画的に行い、活動しやすい環境づくりに努め、利用者の利便性の向上を図り、いきがいつくりの場として提供する。

3 施策の成果指標（基本方針を達成するため本施策に求められる成果を定量的に表記します。）

住民満足度	指標（単位）	総合計画 策定時	中間値 (26年度)	目標値 28年度	達成度
	『生きがいつくりと社会参加の促進』について「満足」と感じる住民の割合	36.9 %	41.7 %	42.0 %	A

主 な 目標指標	指標（単位）	増減	総合計画 策定時	23年度	24年度	25年度	目標値 28年度	達成度
	寿大学への参加者数（延べ人数）	増	1,020	998	1,025	953	1,100	A
	シルバー人材センター入会者数	増	210	252	255	293	358	A
								—

4 施策の活動指標（「3 施策の成果指標」の目的を達成するため本施策において町が行う活動内容等を定量的に表記します。）

主 な 活動指標	指標（単位）	増減	総合計画 策定時	23年度	24年度	25年度	目標値 28年度	達成度
	老人クラブ会員数（人）	増	2,102	2,089	2,076	2,058	2,100	A
	シルバー人材センター受注件数	増	826	898	904	937	960	A
	老人福祉センター利用者人数	増	18,267	19,021	19,005	18,741	19,050	A

5 総合計画の進捗状況調査に基づく基本施策の評価

基本施策			基本施策		
No.	名称	評価結果	No.	名称	評価結果
1	多様な活動への参加促進	A			
2	高齢者雇用の促進	A			
3	活動の場づくり	A			

6 総合評価

成果指標評価	A	活動指標評価	A	進捗状況調査結果	A
総合評価	A (自動判定) ➡ 良好と認められる施策です。				
	総合評価結果に対する分析（施策全体について、進捗状況、有効性・効率性の観点から踏まえて分析してください。）				
	・高齢者の多様なニーズに即した事業展開に努めるため、常に新たな発想で老人クラブ連合会の意見を取り入れたり、新しい高齢者が参加しやすい環境の整備に努めているため、評価結果Aになっていると思われる。 ・今後も高齢化が進み、老人クラブ会員の高齢化も進んでいくため、若年層の加入及びリーダーの養成を促進する必要がある。 ・高齢者がこれまで培ってきた多様な知識や経験、技能を就業の場だけではなく、核家族化が進む中で、世代間交流を通じて子供たちの健全育成や伝統文化の継承をするなど地域社会で生かし、活性化につなげるため事業を継続していく。				

7 今後の方向性

方向性	☒ 現状維持 ☐ 一部見直し ☐ 大幅な見直し ☐ 新たな取り組みや事業を追加 ☐ その他
改善案などの内容	・平成27年度以降、第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づき、高齢者の生きがいと社会参加を目指し、学習活動の支援や多様な学習ニーズに即した事業展開に努めるため、内容を精査し、マンネリ化を避け、老人クラブ連合会の意向など、新しい高齢者が参加しやすい環境の整備に努める。また、老人クラブ会員の高齢化が進んでいるため、若年層の加入及びリーダーの養成を促進する。 ・高齢者がこれまで培ってきた多様な知識や豊富な経験、技能を活かし、核家族化が進む中で、世代間交流を通じて子供たちの健全育成や伝統文化の継承をするなど地域社会での活躍の場を広げ、生きがいや活動の活性化につなげるため事業を継続していく。

8 庁内行政評価委員会コメント

※主管部等では記入しないでください。

評価・方向性	所管部の方向性のとおり
--------	-------------

9 総合計画の進捗状況調査における取組の方向性の評価（事務事業の評価）

[illegible]